

極東産機株式会社

得意先・仕入先向けのWeb-EDIを構築 開発ツールの採用で工数短縮

畳工事のインターネット受注システムも刷新

POINT

- ・WebFacingに代わるWeb開発ツールとして「JC/400」を採用
- ・得意先と仕入先向けのWeb-EDI構築へ
- ・畳工事のインターネット受注システムを一新

COMPANY PROFILE

本 社：兵庫県たつの市
設 立：1948年
資 本 金：4億1575万円
売 上 高：68億円(2012年9月)
従業員数：228名(同上)
事業内容：インテリア機器・畳・襖製造機器・
カーテン縫製機器・特殊産業用機械・
等の設計・製造・販売
<http://www.kyokuto-sanki.co.jp/>



曾谷雅俊 氏
取締役 管理本部長



久保田 佳裕 氏
管理本部 社長室
システム開発課
主幹技師

新たなWeb-EDI開発に JC/400を採用

極東産機は、畳製造機器・インテリア施工省力機器の最大手メーカーである。日本文化の象徴である畳から出発し、現在では自動壁紙糊付機やカーテン縫製システムなど、機械から工具・副資材まで多様なインテリア関連製品を製造・販売している。

同社は2000年、「畳店に儲けてもらう仕組みづくり」に向けて、業界でも注目の「畳替え工事のインターネット受注システム」を構築した。「JCS畳ネットワーク工事管理システム」（以下、JCSネット）と呼ばれるこの仕組みは、同社の畳製造システムを導入した全国650店の畳店と、住宅リフォームを手掛ける農業協同組合（JA）やホームセンターをインターネットで結び、消費者からの注文や工事の発注・管理、畳表の発注などを支援するもの。

JAやホームセンターでは消費者から畳替えの注文を受けると、受注情報を同システムに入力。極東産機はサーバー上で情報を一元管理し、顧客の所在地を営業エリアと

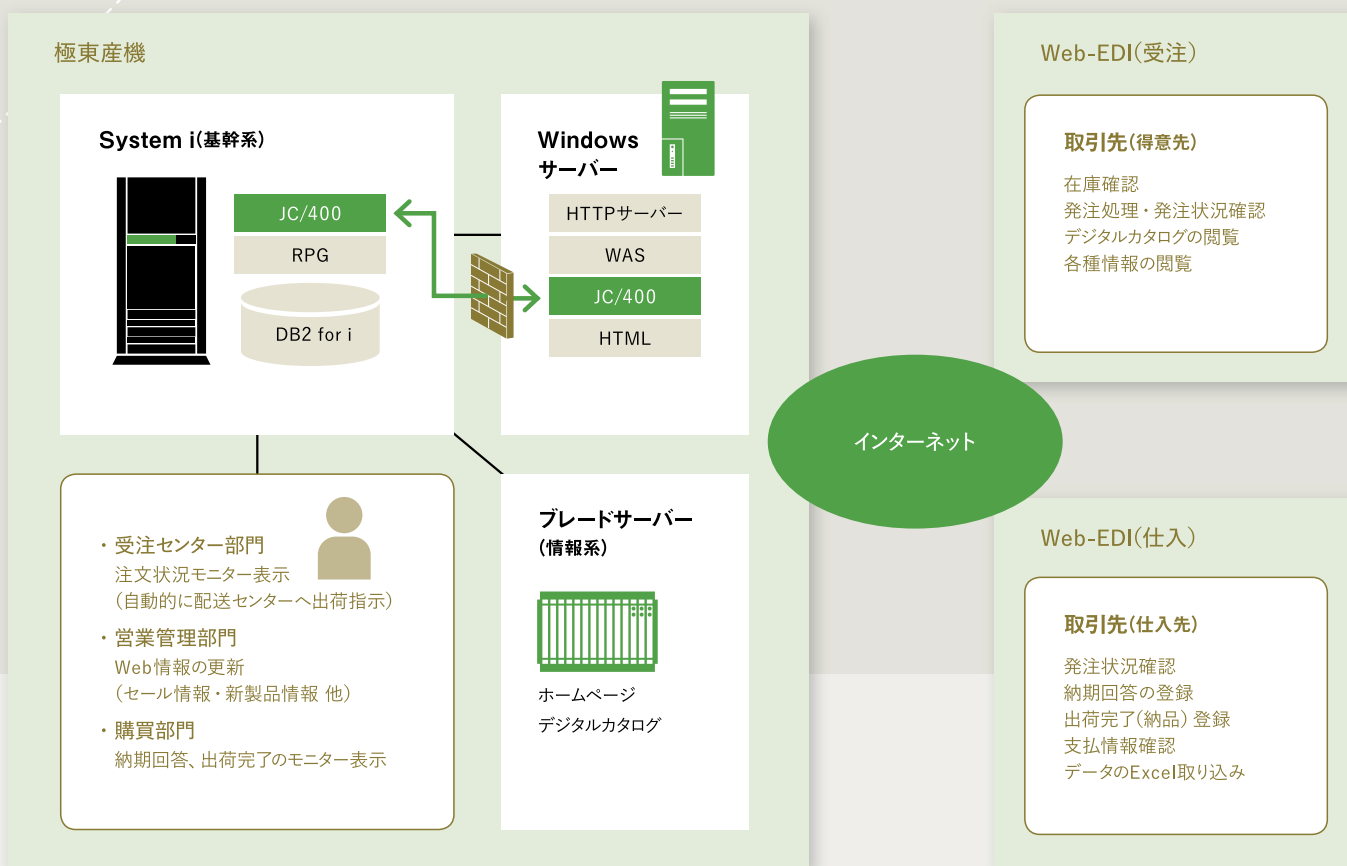
する同社取引先畳店に発注する。畳店は情報に基づいて顧客を訪問し打ち合わせ、必要な畳表を極東産機に発注し、畳を製造して納品する。畳替えをはじめ、ふすま・障子・網戸の張り替えと取り扱い工事の拡大にも容易に対応できる。

「最近では畳が古くなくても、どこに依頼すればいいか悩む消費者の方々も少なくありません。JAやホームセンターなど身近な場所で畳の注文を受けることにより、畳の需要を掘り起こし畳市場を活性化することがこのシステムの目的です」と語るのは、曾谷雅俊取締役管理本部長。

同社は開発当時、販売・生産・会計システムをAS/400で長く運用していたので、JCSネットのWebシステム用にAS/400をもう1台導入した。2005年にはSystem iへのリプレースを機にWebFacingでJCSネットを作り直し、同じSystem i上で基幹システムとJCSネットの双方を運用していた。

最近、取引先である代理店からWeb上で在庫照会や発注を行いたいというニーズが多く寄せられるようになったので、新たなWebアプリケーション開発に向けて、

図表 Web-EDIシステムの概要



「JC/400」(ミガロ。)の導入を決定。得意先向け・仕入先向けのWeb-EDI、そしてJCSネットの機能強化に着手したのである。

ソースの自動生成や 標準コンポーネントで工数短縮

社内開発を基本とするので、システム要件が備えるRPGの開発スキルを活かせることを条件にツール選定を進めた。JC/400はその要件を満たすのに加え、ソースの自動生成機能やサポート力に優れる点などを評価して採用を決めたという。

2011年初頭から計画を進めたが、東日本大震災の発生で予定が遅れ、実際に開発がスタートしたのは2011年9月。最初に取り組んだのは在庫照会や発注、デジタルカタログとのリンクなどを支援する得意先向けのWeb-EDIで、2011年12月に本稼働。次は在

庫照会や発注に加え、データのCSVダウンロードやWordによる伝票発行機能を加えた仕入先向けのWeb-EDIで、2012年5月に本稼働した。そして新しいJCSネットが完成したのは2012年8月である。DBやビジネスロジックはそのまま流用し、画面まわりを一新した。

開発を担当したのは、久保田佳裕主幹技師(管理本部 社長室 システム開発課)とシステム課員1名。久保田氏によれば、「開発のスタートが遅れたため、実質2カ月で最初のWeb-EDIを作らねばならなくなりました。そこでWebサイトのイメージに合ったテンプレートの活用や、HTMLのパターン化と再利用、それにJC/400によるRPGソースの自動生成や標準コンポーネントなどを最大限に活用し、開発時間の短縮に努めました。結果的には、それぞれ2カ月程度の期間で開発を完了しています」とのこと。

得意先へのWeb-EDIでは在庫は数量ではなく、ホテル予約の空室表示と同じく、○(あり)、▲(少ない)、×(なし)で表示する。これは現在の在庫情報と直近の販売実績から基準を定め、自動計算して在庫判定するロジックをRPGで作成した。このロジック定義が最も難しかった部分で、社長のアドバイスを受けながら開発に当たったという。

得意先Web-EDIは、本稼働後4カ月で200店舗を超える利用申し込みを受けた。代理店にとっては在庫問い合わせの電話対応が短縮でき、在庫・注文・出荷状況の確認が効率化できるので、大変に好評だ。その結果、同社の受注業務の効率化にも寄与している。

またJCSネットも一層の機能強化を図り、さらなる事業拡大に貢献できるシステムにしていきたいと考えている。